

古典講読入門への招待

一橋大学では、「古典講読入門」という名称の科目群を設置しています。これまでに読み継がれてきた「古典」を手がかりに、今に通じる普遍的な問題を考えてみましょう。2018年度には、以下のような科目が開講されます。それぞれの科目についての詳しい説明は、シラバスで確認してください。なお、この一覧に掲載されていない科目もあります。

(表の見方)

担当教員名	学期	曜日と時限
内容紹介		

歴史学

馬場 幸栄	春夏	木 2
中世写本研究の世界的権威クリストファー・ド・ハメルの小品 <i>Scribes and Illuminators (Medieval Craftsmen Series)</i> (1992) を英文で精読し、中世ヨーロッパで書物がどのように作られたかを学んでゆきます。		
小関 武史	冬	月 3 + 木 3
フランス革命直前 (1789 年 1 月) に出版された論争的な書物シエス『第三身分とは何か』を邦訳で読む。特権身分に対する攻撃の内容を把握することによって、革命全体についての理解が深まるだろう。		

文学

笹倉 一広	春夏	火 3
中国では「千古第一才女」と称されているのに、日本では知名度の低い女流詞人李清照の回想録「金石録後序」と詞を読みます。漢文を新たな視点から読んでみましょう。		
久保 哲司	秋冬	水 2
恋愛小説の古典中の古典であるゲーテ『若きウェルテルの悩み』を邦訳で読む。自分にとって理想的と思える女性に婚約者がいた—これ以上の苦しみがあるだろうか。人はなぜ他者を必要とするのか。		
松原 真	秋冬	木 4
夏目漱石の文学作品を読み、議論します。演習形式の授業です (抽選あり)。本年度の作品は『三四郎』を予定しています。		

人間科学

小岩 信治	春	月 3 + 木 3
モーツァルト (1756-91) の音楽を聴きつつ、彼の音楽が「クラシック」 (=古典) になる過程で生まれた文章を読みます (アインシュタイン『モーツァルト』 (原書 1945, 邦訳 1961) ほか)。		

総合

フィリップ・ドゥニオ	春夏	火 3
漫画 (bande dessinée) の古典となった「タンタンとミルーの冒険」シリーズ (HERGÉ 作) 中、有名な『タンタンチベットをゆく』 (<i>Tintin au Tibet</i> 1960) を楽しく解説する。フランス語学力中級以上が望ましい。		
河野 真太郎	秋冬	火 3
カルチュラル・スタディーズ (文化研究) の古典として、レイモンド・ウィリアムズの小説『ボーダー・カントリー』を英語で読みます。なぜ文化研究の古典として小説を読むのかは、読みながら明らかにしていきます。		
町田 みどり	秋冬	水 2
フェミニズム思想の代表的著作の抜粋 (英文もしくは翻訳) を時間軸に沿って読む。西欧のものだけではなく、同時代の日本の著作も対象とする。扱われているテーマについてのディスカッションも行う予定。		